

平成22年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校4年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	「話し方の工夫の聞き取り」に対する正答率は低かったが、「話の中心の聞き取り」は正答率が高かった。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方について、継続して指導する。
説明的文章	「文脈に即した内容の理解」の正答率は低かったが、「文章全体の内容の理解」の正答率が高かった。	各段落の要点を読み取っていくとともに、段落と段落の関係、段落の役割について考えさせる指導に力を入れる。
文学的文章	「登場人物の様子」の正答率は低かったが、「場面の移り変わり」の読み取りについては、宇都宮の平均とほぼ同じレベルである。	文脈に沿って、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取っていく指導を続けながら、難解な語句や慣用句などを小まめに取り上げ、豊かな語彙を身に付けさせる。
漢字	3, 4年の漢字については、宇都宮市の正答率を上回っており、ほぼ定着していると考えられる。	新出漢字を学習する場合には、書き順や読み方だけでなく、漢字の成り立ちや意味、部首についても指導し、習得を図る。
言語事項	他の項目に比べて、ローマ字の書き方の正答率が落ちている。ローマ字の表記の理解がやや不十分である。	ローマ字の指導を、日常の国語の時間に少しずつ行いうようにして、児童に負担なく定着させる工夫をする。
作文	学校でお世話になった人への礼状は、礼状の形式がほぼ理解されており、未記入もなくどの児童もだいたい書けていた。	行事に合わせて計画的に書く機会を設けたことで礼状の形式を身につけたと考えられる。今後も学校生活のさまざまな場面で書く活動を意識的に設ける。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	分数、小数の計算については、ほぼ理解できている。「四則混合の式の計算・計算の順番」について理解が不十分である。	既習事項の復習を行う。理解が不十分な児童には個別に繰り返して指導する。
量と測定	分度器を用いて角度をはかることはできるが、角の大きさの見当をつけることができていない。	角の大きさについて復習するとともに、作図を通して理解を深めさせる。
図形	「垂直・平行と四角形」の平行四辺形の性質はほぼ理解できているが、「平行な辺の関係」の理解は不十分である。	平面図形、立体に含まれる辺や面の関係について既習事項の復習を十分に行う。
数量関係	「折れ線グラフ」の読み取りはほぼ定着している。「資料の整理」で、正答率が低かった。	「重なり」や「合計」を求める資料の読み取り方について、繰り返し指導する。